

vol.02

2023年8-11月

伊豆半島ジオパーク News Letter

今号のトピックス

- ・ 國學院大學博物館と連携協定を締結
- ・ 熱川温泉がジオサイトに指定
- ・ 新研究員紹介

Event report

- ・ 東アジア文化都市 2023 「伊豆のふるさとと文学」
- ・ ジオカフェ「街道がつなぐ工芸」「おんせんはたいへん in 河津」
- ・ 静岡ガス連携イベント「ジオぱく深海魚を訪ねて」
- ・ ジオリア開催ワークショップ

Geo Education

- ・ ESD の取り組み
- ・ 特別支援学校でのジオ学習
- ・ 今年度のこども絵画コンクール入賞作品決定
- ・ ジオ検定 3 級
- ・ ジオトレイン

Networking

- ・ ジオパーク世界大会・国内大会への参加
- ・ ビジターセンター情報交換会

國學院大學博物館と連携協定を締結、展示や普及イベントを開催

美しい伊豆創造センターは國學院大學博物館（東京都渋谷区）と連携協定を締結しました。伊豆半島の自然・文化に関する調査・研究をおこなう両者が学術的な交流を深め、展示や教育・普及事業などで相互に連携を進めていくことで合意しました。連携事業の一環として、國學院大學博物館では特別展「三嶋の神のモノガタリー焼き出された伊豆の島々」を開催し、ジオリアでもサテライト展示を行いました。また、特別展に合わせて、テーマにゆかりの深い三島市や下田市を舞台に、同学の研究者を招いたジオカフェやウォークイベント@下田市白浜、@三島市内を実施しました。



連携協定締結式典の様子

イベント

- ↳ ジオカフェ三嶋の神のモノガタリ (8/26)
- ↳ ウォーク@下田市白浜 (10/21)
- ↳ ウォーク@三島市内 (11/4)



8月26日に三島市民文化会館で開催したジオカフェは、定員を大きく上回る50名以上の申込みがありました。特別展の内容に沿いつつ、三嶋信仰を軸に神話と考古学、地球科学の視点からトークを交わしました。平安時代に起きた自然現象、当時の人たちの自然観察や解釈と信仰の結びつき方や、神話と符合する考古学的出土品の話など、参加者の関心は高く、真剣に聞き入っていました。

トークの内容に関連して、実際に現地を訪れるツアーを下田市白浜と三島市内を舞台に開催。國學院大學の深澤教授、吉永助教が信仰の視点から、伊豆半島のジオガイドがジオの視点から現地を案内しました。こちらそれぞれ30名以上と多くの方からの申し込みをいただきました。

展示

(9/23 ~ 11/19)



國學院大學博物館での特別展
伊豆半島からもジオガイドをはじめ多くの方が特別展を見に訪れました



國學院大學博物館から展示物を借用し、ジオリアでサテライト展示を行いました

ESD の取り組み

11月12日(日)に、「持続可能な地域づくりのための発表・交流会」を開催しました。松崎高校や修善寺の親子カフェを立ち上げた会社など、6つの学校・団体が、日頃の活動や実施した事業に関する困りごとや改善点を発表し、今後の活動の発展を目標に、メンターと呼ばれる伴走者や他の発表者と交流を行いました。メンターには、沼津信用金庫様やサントムーン柿田川様など、経験豊富な地域で活躍する事業者の方をお招きし、活動をより良くしていくことにヒントを出していただくなど、それぞれの活動をより活性化させる場となりました。



ESD 発表交流会の様子

特別支援学校でのジオ学習



特別支援学校でのジオ学習の様子

11月17日(金)に、県立沼津聴覚特別支援学校高等部1年生を対象に、専任研究員が講師となって出前授業を実施しました。「豊かな海を未来に～伊豆半島と世界のマイクロプラスチック問題～」をテーマとし、生徒たちが自ら掲げた「私たちができる SDGs」に答える形で、実際に伊豆半島で採取されたマイクロプラスチックを顕微鏡で確認したり、太平洋の潮の流れなどを勉強したりしました。障がいを抱える生徒への授業でしたが、視覚を特に意識した授業内容とするなど、工夫をして臨みました。生徒たちは後日、学習内容を踏まえて沼津の海岸で清掃活動を行いました。授業で使用したマイクロプラスチックは県立葦山高校生が課題研究の一環で調査・採取したものをお借りしました。

ジオ検定 3級 ~合格者総数は6,367名に~

2012年の開始以来、毎年恒例となっている伊豆半島ジオ検定3級を、7月14日(金)から8月31日(木)を受検期間として実施しました。12回目の今回は、583名(オンライン385名、郵送198名)の方にご参加いただきました。ご家族や友人等、気軽にインターネットや書籍で調べ合っただけで参加できることから好評をいただき、企業様や学校の学級・学年単位等、団体で参加する方も増えています。今回の合格者数は548名(オンライン354名、郵送194名)で、50点満点が6名でした。

今年度のこども絵画コンクール入賞作品決定



最優秀賞受賞者の皆さん



中学生の部最優秀賞「南の桜」



小学1~3年生の部最優秀賞「城山と狩野川」



小学4~6年生の部最優秀賞「大地の關心 割塚塚」

今年の「伊豆半島ジオパークこども絵画コンクール」には伊豆半島内の小中学校から、計107点の力作が届けられました。MOA美術館、三島信用金庫、美伊豆ジオパーク推進部が審査員として厳正に審査を行い、中でもすぐれた39点を入賞作品として決定いたしました。最優秀賞は、小学1~3年生の部伊豆の国市立長岡南小学校1年鴨下旺生(おうき)さん、小学4~6年生の部函南町立西小学校6年佐伯晃治(こうじ)さん、中学生の部南伊豆町立南伊豆中学校3年森夏海(なつみ)さんでした。

12月16日には表彰式を行いました。また全入賞作品は、伊豆半島ジオパークの公式ホームページのほか、11月より2月まで行われる伊豆半島各地での巡回展にてご紹介しています。

ジオトレイン

伊豆箱根鉄道(株)および地元の高校と協働して実施している「いずっぱこジオトレイン」の新たなデザイン車両が、12月13日(水)より運行開始しました。第6弾となる今回は、初めて県立沼津商業高校が制作を担当し、「いずじいじと行くジオの秘境」と題して、地域研究活動やおすすめジオサイトを紹介するシールを作成しました。同18日(月)には運行開始式を行い、制作した沼津生がテープカットを行いました。3年生の杉山惺士(さとし)さんは、制作への想いについて、「自分たちが生活している伊豆半島にはまだまだ魅力的な場所がたくさんある。この電車が、ジオパークを多くの人に知ってもらえるきっかけになったら嬉しい」と話しました。



修善寺駅での運行開始式と新しいヘッドマークのジオトレイン

新しい研究員が着任しました！ 佐々木恵子 専任研究員



生態担当の研究員として新しく着任しました佐々木恵子と申します。森林を分け入って植物を調査したり、日本とドイツの里山環境を比較研究したり、観光と自然環境保全を目指す地域研究に取り組んだり、幅広い研究テーマに携わってきました。根底にある興味は、人と自然が作り出した里山のような生態系とどう関わり、どう守っていくのか。伊豆半島ジオパークでは、そういった地質・生態・文化のつながりを紐解き、保全と地域振興に貢献できるということで、地域で活動していくことを楽しみにしています。



10/7 ジオパーク「深海魚」を訪ねて

伊豆半島ジオパークと静岡ガスグループは2019年より、伊豆半島の食の掘り起こしと発信、環境教育のために連携して年数回のイベントを企画開催しています。2023年のテーマは「海」です。



ガイドから戸田のことを学ぶ



深海魚を間近で観察

日本一深い駿河湾に面した沼津市の戸田では深海魚漁が行われています。今回はその戸田で、深海魚をテーマとしたジオパークを開催しました。

「しずおかの海PR大使」でもある青山沙織さんを招いて、深海と深海魚についてお話を聞きました。魚の名前を聞いただけで、子どもたちからは「知ってる!」と声があがり、オスメスの見分け方や、海中での様子、船上がってきたときの色など、深海魚の特徴のお話に聞き入っていました。本物の深海魚が登場すると、市場にでまわることがほとんどない深海魚との対面に会場中大興奮。お昼ごはんには、道の駅くるら戸田特製の「深海サメバーガー」と「トロポッチフライ」をおいしくいただきました。午後からは、バスに乗って「戸田塩の工房」へ。地元のお母さんたちが塩を袋詰めしている手を止めて、工房を案内してくれました。

この日の締めくくりは、ジオガイドさんによるジオツアー。ジオサイトである御浜岬に海越しに望む富士山、雄大な駿河湾の絶景を一望できる出逢い岬で、戸田の地形と深海魚の関わりのお話や、戸田の歴史について教えてもらい、盛りだくさんな一日を終えました。

東アジア文化都市 2023 「伊豆のふるさとと文学～異郷としての日本」を開催

伊豆半島ジオパークは豊かな自然に培われ、伊豆市湯ヶ島など国内屈指の文学の聖地とも称される文化資源が各地にあります。2023年静岡県は東アジア文化都市関連イベントとして、伊豆半島地域でも「伊豆文学祭」を開催しました。

10月15日(日)伊豆の国市のアクシスカつらぎで「伊豆の故郷と文学～異郷としての日本」が開催されました。今回は、(社)日本ペンクラブの「ふるさとと文学」事業として「異郷」をテーマに、文学を素材に映像、音楽、朗読劇をはじめ、外国人作家が描く「異郷としての日本と伊豆文学」として、文学の魅力を発信するイベントとして実施されました。



朗読劇「補陀洛渡海記」



映像ライブステージ「鏡のなかのニッポン」



熱い思いを伝える登壇者のみなさん

「街道がつなく工芸箱根・伊豆」(9/24)

工芸品をテーマとしたジオカフェ。修善寺の麦わら細工、箱根の寄木細工、それぞれ現代の工芸を担う職人と、国内でも屈指の工芸品コレクターである金子皓彦氏を招きました。十五名ほどの参加者がありました。

三島市にあるカフェを会場とし、トークでは街道と工芸品の関係、伊豆と箱根の関係、麦わら細工と寄木細工の関係、世界における寄木、麦わら細工の発展について話題が広がりました。また職人さんから自分たちの取組についての紹介や現代の職人としての思いなどを話してもらうことで地域の工芸とその担い手への理解を深める場となりました。登壇者の皆さんの熱意が伝わる雰囲気の良い会場となり、参加者からはさかんに質問が投げかけられました。後半では、それぞれの職人技の一部を上演してもらいました。

箱根ジオパーク推進協議会の協力を得て、当日は箱根からもスタッフが参加してくれるなど、イベントを通して近隣ジオパークとの連携が叶いました。

静岡県温泉協会との共催で毎年、伊豆半島各地の温泉地を会場に開催しているジオカフェ「おんせんはたいへん」を、今年も河津町のODORICOTOレイルの一環として行いました。テーマは「物語のある温泉の価値を未来へ」とし、文豪川端康成が滞在し、小説「伊豆の踊子」の舞台ともなった「福田屋」の女将稲穂照子さんとSPACの新作、観光演劇「伊豆の踊子」主演女優の河村若菜さん、温泉地域学会の赤池勇治さんを招き、ジオパークの辻研究員がファシリテーターを行いました。赤池さんは、湯ヶ野温泉の歴史、現在全国的に消滅の危機にある共同湯、いっぽうで無形文化遺産として見直されようとしているその温泉文化などについて話題提供。河村さんからは、過去の名作を現代的な感覚で再解釈したSPACの舞台への思いやみどころなどをお話しいただきました。

参加者は三十名で、午前中に希望者を対象として企画した河津七滝のツアーには十五名が参加しました。県外からお越しのお客様もあり、参加者の皆さんは河津温泉を楽しみました。



登壇者を囲んでの記念撮影

おんせんはたいへん in 河津 (11/25)

11/5 ジオパークの写真素材を用いたワークショップ

写真絵本作家の小寺卓矢さんを講師として、小さな子どもでも参加可能なワークショップを開催しました。用意した写真素材をもとに参加者がストーリーを組み立て、オリジナルの写真絵本を作りました。講師は表現や伝え方のコツを子供たちにもわかりやすくアドバイスを行い、子供たちも楽しんで制作を行うことができました。

自分の作った作品への愛着を通してジオパークに親しんでいたただけでなく、何よりです。親子十一名が参加しました。

9/16 絵本作家を招いてのワークショップ

伊東市在住の絵本作家、田中清代さんを招きました。田中さんが挿絵を描いた宮沢賢治の物語「気のない火山弾」を題材とした絵本を使用しました。絵本の中から自然科学と関係のある部分を地質系の研究員が解説。参加者間で役割を決め、ストーリーや挿絵を楽しみながら朗読をしました。

後半は伊豆半島の石を砕いて粉にした岩絵の具を用意し、にかわと混ぜて思い思いの絵を描きました。十一名が参加しました。

8/19 麦わら細工体験ワークショップ

伊豆市修善寺にある麦わら細工工房「あした」の職人さんを招き、麦わら細工の技法のひとつを教えてもらいました。参加者は麦わらを加工して思い思いの柄を作り、風鈴に取り付けました。材料には修善寺和紙も使い、地元の工芸を理解する機会となりました。九名が参加しました。

熱川温泉がジオサイトに指定

7月5日に開催されたジオパーク委員会において、熱川温泉（東伊豆町奈良本）が新たにジオサイト（文化サイト）に指定されました。指定されたのは伊豆急行線伊豆熱川駅を中心とした海岸線までの範囲で、100度に達する高温な温泉が湧出し、立ち並ぶ温泉櫓から湯煙漂うレトロな街並み特徴のエリアです。この地域で育まれた「湯守り」と呼ばれる温泉管理の技術は、まさに大地の遺産を活用して生まれた無形文化遺産であり、サイト指定により文化資源の保全や教育・観光振興につながる事が期待されます。熱川温泉のジオサイト（文化サイト）指定により、伊豆半島ジオパークのジオサイトは合計 184 となりました。



NETWORKING



第10回ユネスコ世界ジオパークネットワーク国際会議（9/6-14）

世界ジオパークネットワーク（以下「GGN」）が主催する2年に一度の国際会議（世界大会）がモロッコのマラケシュで開催されました。ユネスコが取り組む最新の活動方針の確認、他国内外のGGNネットワークを広げ、相互交流による活動に取り組むこと、認定証授与式へ出席することを主な目的として、美伊豆副会長の山下伊豆の国市長と事務局3名で参加しました。

世界大会がアフリカ大陸で開催されるのは初めてで、世界50か国、約1,500名が参加し、日本国内からも14地域から約40名が参加しました。大会参加二日目にモロッコ地震が発生し、以降の大会プログラムは中断しました。一方でこの震災対応を機とした国内外のジオパーク関係者との相互協力等、ネットワークを構築することができました。



開会式の様子



ユネスコ世界ジオパーク認定証を受領



姉妹ジオパーク、チレトゥパラブハンラトゥのメンバーと

第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東（10/27～29）

千葉県銚子市をメイン会場、埼玉県秩父市をサテライト会場として開催した全国大会に美伊豆副会長の山下伊豆の国市長と事務局6名、ジオガイド3名で参加しました。

分科会や交流会では全国各地のジオパーク関係者との交流や、今後の連携事業等の協議を行いました。



銚子での全国大会の様子

第10回日本ジオパーク中部ブロック大会（9/20、21）

苗場山麓ジオパーク（新潟県津南町）で開催された中部ブロック大会に事務局2名、ジオガイド2名で参加しました。パネルディスカッションでは次世代ジオガイド事業を事例紹介しました。また信濃川でのジオラフティングでは普段見ることができない地形・地質を体感することができました。



中部ブロックでのパネルディスカッション

次世代ジオガイドリーダー養成事業

全国大会、中部ブロック大会、サステナブルツーリズム事業、伊豆大島研修に参加しました。これらの成果については、伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク認定5周年記念イベント（3月10日）での報告を予定しています。



伊豆大島研修



サステナブルツーリズム研修



ビクターセンター情報交換会（8/30）

伊豆半島ジオパークビクターセンターのネットワークづくりと相互連携を進めるため、令和5年度第1回伊豆半島ジオパークビクターセンター情報交換会を開催しました。市町には今年度からジオパーク担当に就任された方もいることから、午前中は遠藤研究員によるジオリア案内、午後は辻研究員から伊豆半島ジオパークについてのイントロダクションを行いました。またグループワークでは「ビクターセンターの役割について」「情報交換会で取り上げたいこと・取り組みたいこと」について意見を出し合い、共有の場としました。ここで出された意見や課題は第二回以降につなげ、有意義な情報交換会として行きます。

伊豆半島ジオパークのサポーターになりませんか？
サポーターには定期的にイベント等のお知らせをお送りします。

←詳細はこちら



発行元：(一社)美しい伊豆創造センター ジオパーク推進部
〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内

☎ 0558-72-0520

✉ info@izugeopark.org

URL <https://izugeopark.org/>



伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内
開館時間／9:00～17:00(入館は閉館時間の30分前まで)

FAX 0558-72-0525

☎ 0558-72-1355

休館日／水曜日・年末年始(12/29～1/3)

(水曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

